

城山地区 瓦作自治会

「各種行事等の実施によりコミュニケーションを図る」

●加入世帯数：75世帯 ●加入率：90%

活動内容

瓦作地内は、往年大谷石の産出が非常に盛んな地域でありました。しかし、大谷石の需要の減少等々により、今は当時の面影が全くなくなっていました。また、少子高齢化の影響により、自治会員数は増えることなく年々減少の一途をたどっています。

そのような中、瓦作自治会は会長を中心に、役員・自治会員・消防団が一体となり、各種行事等の実施により地域内のコミュニケーションを図っております。そして、安全で安心のできる自治会を目指しています。

<次にその行事の一部を紹介いたします。>

1 地蔵尊祭礼

毎年、年に一度の祭礼として、旧暦の6月28日が縁日で自治会全体の行事として定着しています。(実際の実施は7月最後の日曜日等、人が集まりやすい日を設定し実施)

一時期衰退したこの祭りも、昭和22年頃(推定)から復活し、その後継続的に実施し現在に至っているものです。

子どもの守り地蔵として、また当自

治会のコミュニケーションの場として根付いているものであり、子どもの健全な成長と安全を祈願するとともに、地域住民の健康と安全をも祈願するものです。

老人会が中心となって、真赤な木綿で「頭巾」と「前垂れ」を縫い、地蔵尊にかけ、「草鞋」を作り「木札」(大谷寺に依頼し祈願をしてもらう)を瓦作地内の東西南北に結びつけ、中央としての地蔵尊建屋に掛けることが慣例となっています。

当日は老若男女が参加し、数珠まわし(百万遍の数珠まわし～南無阿弥陀仏を唱える)を行い、鐘と太鼓に合わせ何回も廻して祈るものです。(太鼓等をたたく子どもがいなくなっているのが残念である)

近年は少子高齢化の波により地内の子どもの数も減少し、祭りの盛り上がりは欠けていたが、次のような施策を講じ、ここ数年参加人数も大幅に増加し盛り上がりを見せています。(前回は120名以上の参加)

- ① 地域消防団の協力による縁日の出し物
- ② 地域事業所からの協賛金の拠出
- ③ 田下のお囃し会の参加協力によりお祭り気分のにぎやかさの創出

地内の子どもは減少しているが、その時期になると、地内から他へ出た人たちが子どもを連れて戻ってきたり、近隣自治会の人達の参加もあり盛り上がりを見せています。

瓦作自治会としては、先達から引き継がれてきたこの行事を継続的に実施していきたいと思っています。(今年度はコロナウイルス感染症防止の為規模を縮小して実施した)



2 どんど焼き

近年、実施されている地域が少なくなる傾向にあります。当自治会としては、毎年継続的に実施しています。(地域消防団の協力のもと実施)

一時、開催場所等の問題があり、開催が危ぶまれた時期もありましたが、開催場所提供者の協力により、場所を替えながらも継続しています。(前回は80名以上の参加)

実施内容

- ・1月中旬の日曜日実施(鏡開き後)
- ・開催日当日は朝から竹の切り出しから始まり「やぐら」の作成
- ・「とん汁」の準備(来場者に振る舞うため)

- ・午後5時30分に子どもたちによる点火
- ・午後7時終了
- ・地域消防団により火の後始末の実施

鏡開きにより神棚に供えていた供物等を焼却し、新年の五穀豊穰等を祈願するなど、新年にふさわしい行事として当自治会としては、今後も継続していきたいと思っています。

新年最初の行事のため、新年のあいさつ等を含めた地域内の人たちのコミュニケーションの場としても役立っています。



加入率を維持する秘訣

自治会長が中心となり、未加入者に対し声掛けを行っています。

また、転入者に対しては、大家さんからの声掛けを行って頂いたりもしています。

しかし、なかなか自治会活動の有意性について理解が得られない現状にあります。